

## 病害虫発生予報 第6号(9月予報) について

令和7年度病害虫発生予報 第6号(9月予報) を別添のとおり発表します。

### (補足)

県農作物病害虫防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報(発生予察情報)を提供しています。

「病害虫発生予報」は病害虫の発生予測及び防除情報を定期的に発表するもので、本県の場合は4～11月に月1回発表しています。

### (連絡先)

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病害虫防除所
担当者	松山	岡本
電話	073-441-2905	0736-64-2300

# 病害虫発生予報 第6号 (9月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

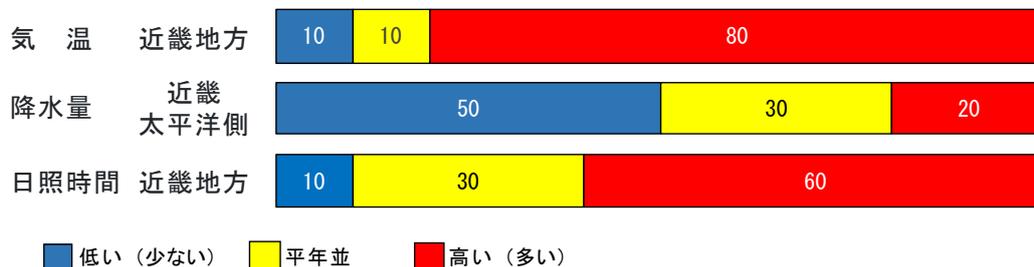
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	やや少	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	並
	紋枯病	並		ハスモンヨトウ	並
ダイコン ハクサイ キャベツ	トビイロウンカ	並	カキ	黒点病	並
	イチモンジセセリ	並		かいよう病	並
	コブノメイガ	やや少		ミカンハダニ	多
	斑点米カメムシ類	県北部 やや少 県中部 やや多		チャノキイロアザミウマ	並
野菜・花 き全般	アブラムシ類	並	果樹全般	炭疽病	並
	ハダニ類	やや多		うどんこ病	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや少		円星落葉病	並
	ミカンキイロアザミウマ	並		角斑落葉病	並
				フジコナカイガラムシ	やや少

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報 (08/23~09/22)

2025年08月21日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、期間の前半は降水量の少ない状態が続くでしょう。	
向こう1か月 08/23~09/22	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で少ない確率50%です。
	日照時間	日照時間は、多い確率60%です。
1週目 08/23~08/29	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 08/30~09/05	気温	2週目は、高い確率80%です。
3~4週目 09/06~09/19	気温	3~4週目は、高い確率70%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



# I. 水 稲

## 1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の葉いもちの発生ほ場率は25%（平年35%）、発病株率は1.3%（平年6.9%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種（「キヌヒカリ」等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は17%（平年24%）、発病株率は3.2%（平年4.1%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第3葉鞘以上の上位葉で発病すると減収などの被害に繋がる。病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施する。また、病斑が上位葉鞘まで達していなくても、発病株が多い場合は防除を実施する。

② 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなる。次作は密植にならないよう注意し、防除を徹底する。

## 3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部および県中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率12%、25株あたり生息密度1.0頭）であった。

② 予察灯による6月1日～8月20日の飛来数は、紀の川市1頭（平年5.1頭）、上富田町0頭（平年22.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

## 4. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部および県中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、25株あたりツトム数0.04）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必

要はない。

## 5. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部および県中部の普通期栽培における 8 月上旬の発生ほ場率は 4% (平年 23%)、25 株あたり被害葉数は 0.1 葉 (平年 0.9 葉) であった。
- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による 8 月 1~15 日の成虫誘殺数は、0 頭 (平年 6.3 頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 9 月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

## 6. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 県北部 やや少  
県中部 やや多

(2) 予報の根拠

- ① すくい取り調査 (捕虫網 20 回振り) による 8 月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で 60% (平年 76%)、2.7 頭 (平年 9.1 頭)、県中部の普通期栽培で 100% (平年 84%)、19.3 頭 (平年 6.9 頭) であった。
- ② 予察灯による 8 月 1~20 日の誘殺数は、紀の川市 120 頭 (平年 175.3 頭)、上富田町 19 頭 (平年 12.2 頭) であった。
- ③ 9 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 晩生品種では、乳熟期~糊熟期に薬剤を散布する。
- ② 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 5 号 (令和 7 年 8 月 28 日発表) を参照する。

※ 水稻害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病害虫防除所の水稻害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野菜・花き

### <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

#### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる 8 月 1~20 日の誘殺数は、和歌山市 1 頭 (平年 0.7 頭)、紀の川市 1 頭 (平年 0.2 頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### <野菜・花き全般>

#### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける 8 月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は 13% (平年 16%)、生息葉率は 0.3% (平年 1.3%)、モモアカアブラ

ムシの発生ほ場率は0%（平年；発生ほ場率5%、生息葉率0.2%であった）。

② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、8頭（平年71.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。
- ② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

## 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は38%（平年28%）、生息葉率は4.9%（平年5.4%）、ナミハダニの発生ほ場率は50%（平年18%）、生息葉率2.0%（平年3.7%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

## 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は38%（平年44%）、生息葉率は1.8%（平年12.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

## 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

## 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、紀の川市40頭（平年37.2頭）、御坊市81頭（平年72.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

## 6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける 8 月中旬の発生ほ場率は 0%（平成：発生ほ場率 6%、生息葉率 0.1%）であった。
  - ② フェロモントラップによる 8 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 370 頭（平成 142.6 頭）、紀の川市 423 頭（平成 255.3 頭）、御坊市 149 頭（平成 188.3 頭）、印南町 57 頭（平成 75.8 頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 8 月下旬の発生ほ場率は 37%（平成 41%）、発病果率は 6.0%（平成 11.3%）であった。
  - ② 9 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 8 月中下旬に防除できなかったほ場では、9 月上旬に早急に防除を行う。
  - ② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

#### 2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量（果実および夏秋梢） 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 8 月下旬の春葉病斑の発生ほ場率は 29%（平成 26%）、発病葉率は 1.5%（平成 1.0%）、発病果率は 1.9%（平成 2.2%）であった。
  - ② 9 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。
  - ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので、9 月以降翌春までに剪除する。

#### 3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 8 月下旬の発生ほ場率は 49%（平成 17%）、発生葉率は 14.0%（平成 4.1%）、100 葉あたりの雌成虫数は 43.0 頭（平成 11.2 頭）であった。
  - ② 9 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に 2 回以上使用しない。
  - ② ミカンサビダニの発生が認められるほ場では、ミカンハダニとミカンサビダニの両種に適用のある有効薬剤を選択する。

#### 4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月下旬の果実の被害ほ場率は24%（平年21%）、被害果率は1.6%（平年2.4%）、100果あたりの生息虫数は0.1頭（平年0.0頭）であった。
- ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる8月1～20日の誘殺数は由良町122頭（平年192頭）、有田川町39頭（平年54頭）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していないほ場および夏秋梢の多いほ場では、9月の発生状況をよく観察し、成幼虫の生息果率が15%以上の場合は薬剤防除を行う。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」13%（平年14%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年1%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」0.4%（平年0.6%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.0%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
- ② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は「富有」44%（平年70%）、「刀根早生」・「平核無」29%（平年19%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は「富有」4.8%（平年6.3%）、「刀根早生」・「平核無」1.0%（平年1.0%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

### 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平年2%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年3%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平年0.0%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.1%）であった。
- ③ 県北部では感染時期である5月上旬から6月中旬にかけて降水量は平年並～かなり多いの間を推移した。その後7月中旬の降水量はかなり多かった。

- ④ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

#### 4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」6%（平年1%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年2%）であった。
  - ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0.6%（平年0.0%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.0%）であった。
  - ③ 県北部では感染時期である5月上旬から6月中旬にかけて降水量は平年並～かなり多いの間を推移した。その後7月中旬の降水量はかなり多かった。
  - ④ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
  - ② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

#### 5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」25%（平年58%）、「刀根早生」・「平核無」6%（平年18%）であった。
  - ② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」1.0%（平年4.7%）、「刀根早生」・「平核無」0.1%（平年0.7%）であった。
  - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

### <果樹全般>

#### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」0%（平年6.1%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.9%）であった。
  - ② 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが646頭（前年2,095頭、平年610頭）、ツヤアオカメムシが57頭（前年1,244頭、平年309頭）、クサギカメムシが1,023頭（前年849頭、平年713頭）であった。
  - ③ 有田川町奥の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが284頭（前年2,241頭、平年406頭）、ツヤアオカメムシが98頭（前年397頭、平年123頭）、クサギカメムシが201頭（前年676頭、平年189頭）であった。
  - ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが453頭（前年1,837頭、平年1,151頭）、ツヤアオカメムシが135頭（前年890頭、平年555頭）、クサギカメムシが429頭（前年144頭、平年372頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向がある。
- ② ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病害虫防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780